

命を救うご近所の力

ご近所とのあいさつが災害対策に

阪神・淡路大震災では、倒れた建物に閉じ込められた35,000人のうち、約8割の27,000人が近隣住民などに救出されました。住民同士での普段のあいさつによって、良い関係が築かれ、命を守ることに繋がります。



近隣住民が
27,000人を救出!

(写真提供:人と防災未来センター)

高齢者や障がいのある方を助けるために

地域には、自分や家族だけでは避難が難しく、周りの方の支援が必要な方がいます。そうした方を、地域で支えていく仕組みづくりが市内各地で始まっています。

災害時要援護者避難支援対策

町内会などが中心になり

- ①災害時に「支援が必要な人」と「支援する人」を募集
- ②町内会などは両者を互いに組み合わせ、災害時には一緒に避難する支援体制をつくる



詳細 保健福祉局総務課 ☎211-2932

地域の安心をつくる

町内約420の世帯から「支援に協力できる方」69人、「支援が必要な方」42人の登録があり、組み合わせを行いました。支援が必要な方々の事情を考慮しながら支援体制をつくり、実際に防災訓練も実施。普段も声掛けがされ、町内の交流も活発になりました。今後も取り組みを続け、地域の安全・安心につなげていきたいと思っています。



西岡サニーヒル町内会顧問
さとう えつろう
佐藤 悦郎さん

ほ地 か震 の

風水害にどう対応しますか？

札幌に巨大な台風が近付いてきたら…。あなたはどんな対策をとりますか？

何が起きるのか？

暴風で木々が倒れたり、物が飛んできたりします。また、大雨によりがけ崩れや河川のはんらん、建物の浸水につながる場合があります。札幌では、平成16年に台風によって4人の方が亡くなりました。



油断しないことが大切!風水害対策

- テレビやラジオで気象情報を確認し、危険を感じたら早めに避難
- 停電に備え、ラジオや懐中電灯を準備
- 事前に洪水ハザードマップ(下記)などで地域内の浸水が想定される個所を確認



被害を少なくするための対策を

阪神・淡路大震災では、亡くなった方の約9割が、発生後15分以内に命を落としたといわれています。このようなわずかな時間の中では、消防や警察、自衛隊の救助も間に合いません。身を守るためには、自分で災害対策をする必要があるのです。8月30日(月)～9月5日(日)は防災週間。この機会に、災害が発生したとき、自分や家族に何が起きるのか想像し、被害を最小限にするために行動してみませんか。

パンフレットを配布しています

防災や耐震診断などのパンフレットを配布しています。

配布場所
市役所6階危機管理対策課、区役所など
さらに詳しい情報はホームページ
www.city.sapporo.jp/kikikanri



◎広報番組でも防災情報を放映します

8/18(水) ウオッチング札幌(TVH) 午後10時54分～59分

参考図書:兵庫県(2009年)『阪神・淡路大震災の教訓』ぎょうせい、目黒公郎(2007年)『間違いだらけの地震対策』旬報社 ほか